

- 1 派遣期日 令和元年10月16日(水)
- 2 研修先 学校名(会場名) 埼玉大学教育学部附属小学校
所在地 〒330-0061 埼玉県さいたま市浦和区 常盤 6-9-44
<http://www.fusho.saitama-u.ac.jp>

3 研修内容

(1) 視察校における研究への取り組み

研究主題：「学びの本質」を育む授業の創造（8年次・最終年次）
～ともに広げ、ともにしぼる思考力～

埼玉大学教育学部附属小学校では、平成23年度より学校研究により「学びの本質を育む授業の創造」を研究しており、現在8年目である。「マスターキー」と呼ばれる全教科・全領域に共通する学力を、「水平思考力（多様な観点で、複数の考えを生み出す力）」と「垂直思考力（課題に対する自分の考えを再構成する力）」の観点に特化して研究を行っている。昨年度からは、水平思考力と垂直思考力を効果的に発揮できる潤滑油のような役割として、「協同的思考力（他者を理解し、人と関わる力）」に視点を当て、研究を推進している。



① 水平思考力 ～ひろげる力～

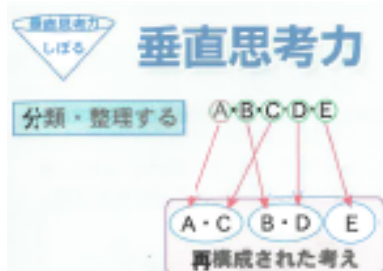
多様な観点で、複数の考えを生み出す力。問題に対して発想したり、既習の内容から新たな考えを連想したりする思考スキル。

② 垂直思考力 ～しぼる力～

課題に対する自分の考えを再構成する力。課題に対して複数の考え出された際に分類・整理したり、複数の考えを分析比較したり、複数の考えから取捨選択したりする思考力。

③ 協同的思考力 ～働きかける力～

他者を理解し、人と関わり合う力。中学年では目的の共有・思考の可視化に重点を置き、高学年では学びの価値付け・立場や状況の可視化・グルーピングに重点を置いて、課題を解決する。



4 授業参観を通して

(1) 第1学年 算数科「ひきざん」

13-7の引き算が複数の考え方で計算できることについて課題に設定して、それぞれの計算方法について考える授業であった。導入時では、卵パックを使い、興味を持たせる手立てがあった。自力解決の児童の考えには以下のものがあった。

① 13から1つずつ引く。(数え引き)

□□□□□ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■

② 13を10と3に分け、10から7を引き、残りの3と3を足し6。(減加法)

□□□■■■■■■■■ □□□

③ 13からまず3を引き、10から4を引いて6。(減減法)

□□□□□■■■■■■ ■■■■

考えの共有化では、まず違いについて話し合い、共通点を明確にさせながら捉えられるようにされていた(水平思考力)。

その上で、減加法・減減法ともに、10を補数にして、7を引くか、4を引くかという違いに気付かせていた(垂直思考力)。

授業の最後には、減加法・減減法を用いる数値の違う問題場面を自分で考える活動を行い、学習を振り返った。

(2) 第5学年 理科「物の溶け方」

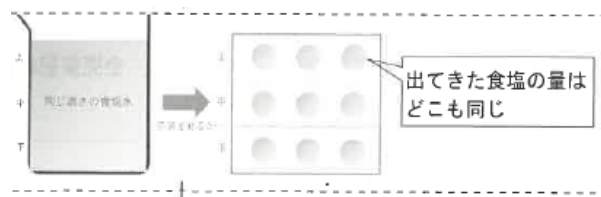
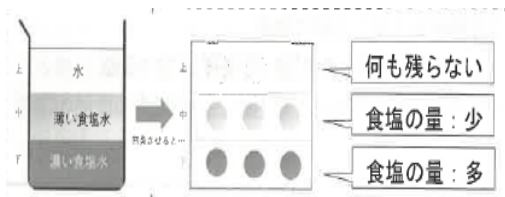
水に食塩を溶かしたときの食塩の様子について、実験結果を基に考察し、イメージ図で表現し、問題解決をする授業であった。導入では、食塩水をまぜてから1週間後には、食塩の粒子はビーカー内のどこにあるか予想を立てた。

本時の実験では、ビーカーの上部・中部・下部から食塩水を取り出し、熱すると得られた食塩の量は一緒であった。その結果を基にビーカー内の食塩の粒子モデルを記入し、食塩水の濃度はどの場所でも均一であると表現していた。

本授業では、食塩の粒子モデルを使うことで、濃度と食塩の粒子を関係づけ、結論づけていた。

【実験前のイメージ】

【本時の終末にてのイメージ】



5 感想

- 研究課題である「ともに広げ、しぼる」という授業が1～6学年まで取り入れられていた。考えを学級全体で共有する(水平思考力)、しぼって考える(垂直思考力)の授業が学校全体で行われていた。ただ思考するだけでなく、既習内容を結びつけたり、考え同士を連想させたり、様々な思考ツールが授業に用いられており、学年が上がるとともに、より高度な思考力が身に付いていた。
- 学校内のあらゆる場所に教科の資料が掲示されており、児童の興味関心を得られる場が設けられていた。
- 実物投影機やスクリーンが教室に常備されていた。教科書の図など拡大表示できるので、視覚的に分かりやすい環境作りがなされていた。